



地域と消防団のさらなる連携を目指す

まつばやし 松林 やすみつ 泰光 さん



PROFILE まつばやし・やすみつ (41: 上岬区)

平成13年度に御前崎町消防団へ入団。合併後の市消防団で班長、部長、分団長を歴任。本部長、副団長を経て、この4月から団長を務める。

人と人のつながり

この4月、市消防団の団長に就任した松林さん。自身の団員生活を振り返り、「消防団は、単に訓練や消火活動を行うだけの団体ではなく、人と人が接し、時に意見をぶつけ合い、喜びを分かち合いながら、地域のひとかけがいのない人間関係を築きあげていく団体。人と人のつながりこそが地域の安全を守るために大切なこと」と力を込める。

震災を教訓として

250人を超す消防団員が犠牲となった東日本大震災に触れ「発災直後、いち早く被災地で救助活動にあたった彼らに敬意を表するとともに、災害時に私たち消防団に科せられた使命の重さを再認識することとなりました。

震災以降、消防団の必要性が全国的に叫ばれる一方で、団員の確保は非常に困難な状況にあります。地域と消防団は密接な関係にある以上、団員の確保は、今後、地元町内会や自主防災会が主体となつ

て対象者を集めていただき、消防団がそれに協力する形で団員の確保に努めていきたいと考えます。消防団も、入団しやすい環境をつくるために変えるべきところは変えていきます。団員とその家族の福利厚生や各分団の装備充実を図るとともに、市民への積極的なPR活動を通し、消防団が魅力的な存在に変わるよう行政と協力し進めていきます」と、団のあり方を語る。

防災の意識を高め

「いざという時のために、日頃から防災マップで避難場所や避難経路を確認しておくだけで、多くの命が助かります。大地震の発生時には、消防団員を含めた全ての人が、自分や家族を守るために避難を最優先してください。一人一人が自ら避難するという意識を常に持ち続けることが地域の防災力を高めます。

消防団は、火災現場での消火活動のみならず『地元は自分たちで守る』という強い意思のもと、地域住民の生命・財産を守るために行動します」と頼もしい言葉をくれた。